

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	令和元年度第2回河内長野市都市計画審議会
2 開催日時	令和元年11月29日(金) 午前10時から
3 開催場所	河内長野市役所 802会議室
4 会議の概要	1. 次の案件について事務局より説明を行い、審議した。 ・南部大阪都市計画生産緑地地区の変更(河内長野市決定)について(付議) 付議案については、案のとおり承認された。
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0名
7 問い合わせ先	(担当課名) 都市づくり部都市計画課計画指導係 (内線545)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

令和元年度第2回河内長野市都市計画審議会

日時：令和元年11月29日（金）

午前10時～午前11時

場所：河内長野市役所802会議室

次 第

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 委員紹介
4. 審議会成立の報告
5. 議題
（1）南部大阪都市計画生産緑地地区の変更（河内長野市決定）について（付議）
6. その他
7. 閉会

出席者

第3条第2項第1号

峯 満寿人
工藤 敬子
奥村 亮
堀川 和彦
宮本 哲
大原 一郎

第3条第2項第2号

井戸 清明
奥野 豊
嘉名 光市
田中 三代繼
西 義浩
西野 修平
増田 勝紀

第3条第3項

山本 淑子
尾花 英次郎

1. 開会

2. 市長挨拶

「令和元年度第二回都市計画審議会」の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
委員の皆様には、ご多忙の中、本審議会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。
また、平素から、本市の都市計画行政に多大なご尽力を賜り、心よりお礼申し上げます。
さて、本年五月、本市が誇る中世文化遺産を活かしたストーリーが、日本遺産に認定されました。

本市では、この認定を契機として、交流人口の増加、定住人口の維持に更に力を注いでまいります。

本日の案件は、「南部大阪都市計画生産緑地地区の変更について」の一件でございます。

委員の皆様におかれましては、後ほど、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

3. 各委員の紹介

第3条第2項第1号委員、第2号委員、第3項委員の順番に紹介

4. 審議会成立の報告

委員15名の内、出席者15名。

2分の1以上の出席により審議会は成立

5. 案件付議

(1) 南部大阪都市計画生産緑地地区の変更（河内長野市決定）について（付議）

市長から会長に付議書を手交

事務局から議案書に基づき説明

質疑応答

質問、意見なし。

市案に同意する旨答申することについて、全会一致で決定。

会長から市長に答申書を手交

6. その他

(西野委員)

生産緑地は30年の営農義務があり、2022年には、その30年が経過し、今後どうしていくかという選択を迫られると思うが、もし解除するとなると、何十年も遡って税金をおさめる必要があるということか。特に喜多町などは、規模が大きいと思うので。

(事務局)

納税猶予と都市計画税・固定資産税は分けて考えていただきたい。特定生産緑地に指定しない場合、都市計画税・固定資産税については、5年間をかけて毎年20パーセントずつ増加していく。納税猶予については、主たる従事者が亡くなった場合のみ、相続税が免除されるので、30年経過後に伴う買取申出をして行為制限を解除してしまうと、相続時まで遡り、利子税と相続税を払う必要がある。都市計画税・固定資産税については、遡って払う必要はない。

(増田委員)

11月20日の朝日新聞の夕刊にテレビ大阪による関西住みたい街ランキング2019が掲載されており、河内長野市は98位であり、富田林市は48位である。これは、安全度や財政力、医療、教育など7項目で判断している。河内長野市は停滞しているが、今後どうしていけばいいのか、委員の皆さまにお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。

(市長)

真摯に受け取らなければならない案件である。他にも色々なランキングがあり、2、3週間前の週刊ダイヤモンドによると2045年には、日本で一番財政難になる市とされている。そうならないように、対策を練る必要がある。住みやすい街にしていくために投資することは必要だと思いますが、そこも十分にはできない状況である。深く考えないで、投資して、住みやすい街にするのも一つの手ではあるが、ハイリスクハイリターンであり、なかなか手をつけにくい状態ではある。そうすると、固いところで、歳出を抑えて、投資できないところは、知恵を絞って、住みやすい街にしていく。大胆なことはできないが、着実にすすめていける場所はあると考えている。大阪の場合、北の方に東海道が通っているのだから北高南低と言われている。このランキングにおいても、北高南低である。やはり、東海道沿いに工場や産業が集まり、それに伴い雇用創出がされており、お金がまわるサイクルができあがっている。所謂好循環である。河内長野市を含めて南河内については、悪循環に入っている。抜本的な改革としては、道が重要であると考えている。長期的には、高速道路、短中期的には、堺への道路がある。道ができれば、道沿いに色々なお店、工場ができ、産業が発展していく。そうなるとお金がまわる仕組みができ、色々なところに投資ができ、住みやすい街になっていくと思う。河内長野市の歴史を振り返ると、河内長野市の半分はスギ・ヒノキの人工林である。現在は電気等に代わっているが、昔は、木を燃料として使用していた。時代の流れは変わらぬと思うので、時代にあわせて、やっていくことも必要だと思うが、既にあるもの(木)を活かしてやっていく等、工夫していくことも

必要だと考えている。市としては、市民の方々の意見等を真摯に受け止めて、変えることができるところは変えていきたいと思っておりますので、色々なご意見をいただけたらと思います。

(嘉名委員)

テレビ大阪のランキングがどうゆう資料で行っているかわからないが、一般的にランキングには指標がいくつかあって、その中で良いもの、悪いものがある。河内長野市は犯罪が少ないという長所など、いいところもたくさんあると思う。トータルでみると高いとは言えないが。先ほどの住みやすい街ランキングの指標というのが、時代とともに変わってきていると思う。20年～30年前は、良好な住環境、豊かな自然が住みやすい街に占める割合が高かったと思う。その項目でいくと河内長野市は、ランキングは高かったと思う。時代が変わり、利便性を重視するようになった。海外の都市計画を見てみると、20分圏内に職場、学校、託児所がある場所をつくっていくという流れになっている。河内長野市は、豊かな自然、歴史、文化など良いところはたくさんあるが、利便性の要素を少し足していかなければいけないと思う。

(山本委員)

子育てのまち河内長野を謳っているのにも関わらず、なぜ若い人が減っているのかが疑問で、若いお母さんに聞いたところ、高速道路がないなど利便性が悪い、便利な商業施設がない、という答えがかえってきた。若いお母さんが子育てしやすいように子育てサロンを新しくつくったりして河内長野に戻ってきてもらおうと努力しているのだが、やはり根本的なところがネックになっていると思う。大きな企業が他市に流出するのは、河内長野の地代が高いんだと思う。そういう面から、市の努力が足りないんじゃないかと感じてしまうので頑張っていたきたい。

(大原委員)

ランキングが出てしまっているので、それは真摯に受け止めなければならない。お金がないからといって、守りだけではいけないと思う。少ない投資で、大きくみせることを考えていかなければならない。意識を変えることで大分変わってくる部分はあると思う。市民に夢を与えるような発信をしていければと考えている。

(西野委員)

まちづくりの基本は、不動産価値を高めることだと思っている。大阪府下の地価は上がっているが、南河内だけ、住宅地の地価は、下がっている。商業地域の地価は横ばい。不動産価値を上げるには、道路、鉄道が大切になってくる。鉄道に関して言えば、つなげること。南海高野線と近鉄長野線と JR 関西本線はそれぞれの駅で横付けされているので、これをつなげると大阪東線をいれて新大阪まで乗り換えなしでいける状況を簡単につくることができる。そういったことを求めていく。また PTP (プライベートトップパーソナル) の考え方を取り入れた方がよいと思う。

(峯委員)

まちづくりにはこれといった正解はないと思う。人口が増加している近隣の和泉市にお

いて当初テクノステージも企業で埋まっていなかったが、現在は埋まっている。それは、時代のニーズに合致した結果だと思っている。ニーズに対してまちの形を柔軟に変えることも必要なことなのかと感じている。河内長野は他市と比べて、規制が厳しく土を動かすににくいと思うので、ニーズにあわせて緩和する等、市として見直すことも必要ではないかと思う。

(井戸委員)

ランキングが下であるということは楽であると思う。商売人の考え方としては、上だけ見とけばいい。芥川龍之介の蜘蛛ではないですが、これ以上おちて死んでしまうなら、蜘蛛の糸にでもすがってのぼっていかなければならない。父親は倒産を経験しており、私自身も何度か危ないときはありました。そういうときにはがむしゃらに、体裁を保っている必要はない、やっつけられない、働くしかない、働くベクトルがどっちをむいているか、一番大切なのは、河内長野市で働いている職員のベクトルがどうしたら同じ方向に向くのか、が大切だと思う。情報があまり公開されていない。市長がおっしゃった投資というのは、公共の投資だと思うのですが、だからお金がないとおっしゃられている。私どもにとって不満は、私どもは河内長野で、商売を続けていきたい。企業として投資ができるのかできないのか。投資ができるのが他市であるならば、他市に寝返ってしまう。それが外にいくかいかないかの分岐点であると思う。工場を拡張したいけど、できない等があると思う。話は変わりますが、私の大学先輩に木下サーカスの社長がいまして、一回河内長野でできるか調べてほしいと言われました。関西サイクルスポーツセンターもあるから、周辺人口何人いるか調べてほしい。少なくとも、周辺人口が80万人から100万人は必要である。このことからわかるようにマーケティングが重要である。お台場の周辺のマンションがここ数年建ちました。先週に東京にいったときに、見るとマンションは全て完売でありました。誰がここに住めるんだろうというくらい高い値段であるのに。その場所は、来年のオリンピックの水泳の会場の近くである。その例からみるようにお金をもっている人はたくさんいます。そういう人たちに河内長野にお金をつぎこんであげようじゃないかと思わせることが大切です。つぎこんだ結果として市に税金が入ってくる。このような循環にならないと公共への投資はしていただけない。河内長野には、個人の資産をたくさんお持ちの人はいるとは思いますが、先祖代々の土地を手放しにくい、0からスタートした人間とは考え方が違う。今回の千曲川の大氾濫により産業に影響が出ています。大手のクボタさんでも影響が出ています。ある若い農家の方がゴミを置くために自分の畑を差し出した。それから周りの方もどんどん畑を差し出した。それが好循環の良い例ではないかと思えます。何もなくてこれ以上なくなっちゃいけない、河内長野はそこまでいっていないんじゃないかと。外の人にむかって河内長野市にきてくださいと言えるまちにしてほしいと生まれ育った1人として思うわけでございます。

7. 閉会